

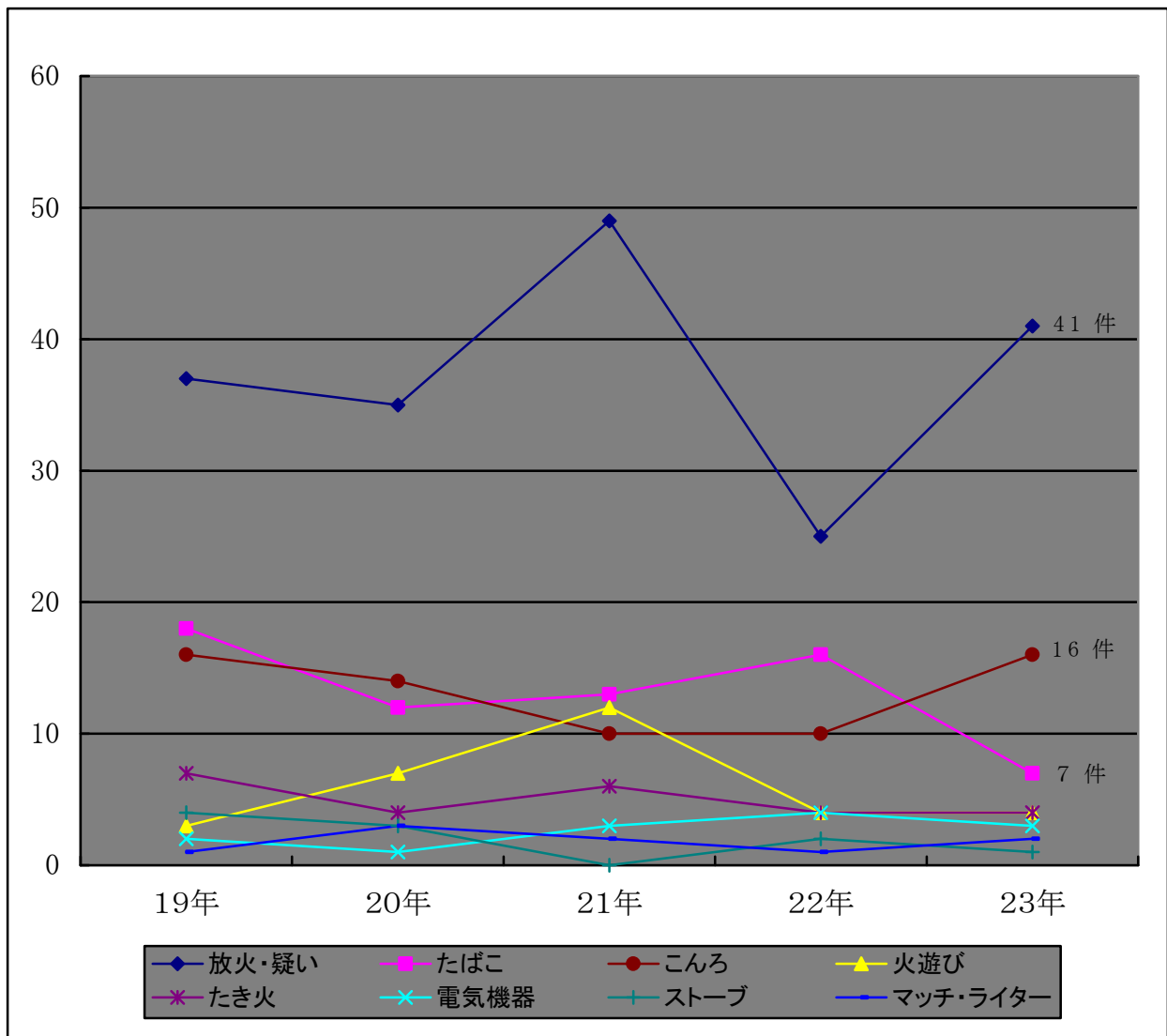
4 主な出火原因別の状況

平成 23 年中の出火原因で最も多いのが「放火（「疑い」を含む、以下同じ。）」で、41 件発生している。次いで「こんろ」16 件、「たばこ」7 件、「火遊び」、「たき火」各 4 件の順となっている。

過去の主な出火原因別件数をみると、「放火」、「たばこ」、「こんろ」が常に出火原因の上位となっている。

出火原因別件数状況は、図 4-0-1 に示すとおりである。

図 4-0-1 出火原因別件数状況（最近 5 年）



平成 23 年中の出火原因上位である「放火」、「こんろ」、「たばこ」の 3 つについて、以下取り上げる。

(1) 放火～21年連続、出火原因の1位～

ア 火災状況

平成23年中の「放火」による出火件数は、前年に比べ16件増加して41件であり、全火災(114件)の36.0%となっている。放火による火災は、平成3年から21年連続して出火原因の1位となっている。

また、平成23年中は、中新町地内と玉野町地内で、放火による火災が多発した。

放火火災の状況は、表4-1-1に示すとおりである。

表 4-1-1 放火火災一覧（最近5年）

平成	出火件数（件）										焼損床面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	建物	焼損棟数（棟）					林野	車両	その他				
			全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計							
19	37	9	1	0	2	9	12	0	2	26	19	2,280	2(2)	1(1)
20	35	14	2	0	8	6	16	3	2	16	604	26,405	1(1)	1(1)
21	49	21	2	1	4	15	22	1	5	22	509	62,462	4(4)	1(0)
22	25	10	1	1	7	5	14	1	4	10	80	14,915	1(1)	0(0)
23	41	16	0	1	5	12	18	0	5	20	349	7,978	0(0)	4(2)

(備考) 1 焼損棟数に類焼棟も含む。

2 死者及び負傷者の()は、自殺者・自損者を表す。

「放火」による火災の種別は、その他の火災が20件で48.8%となっており、次いで建物火災が16件(39.0%)、車両火災5件(12.2%)となっている。

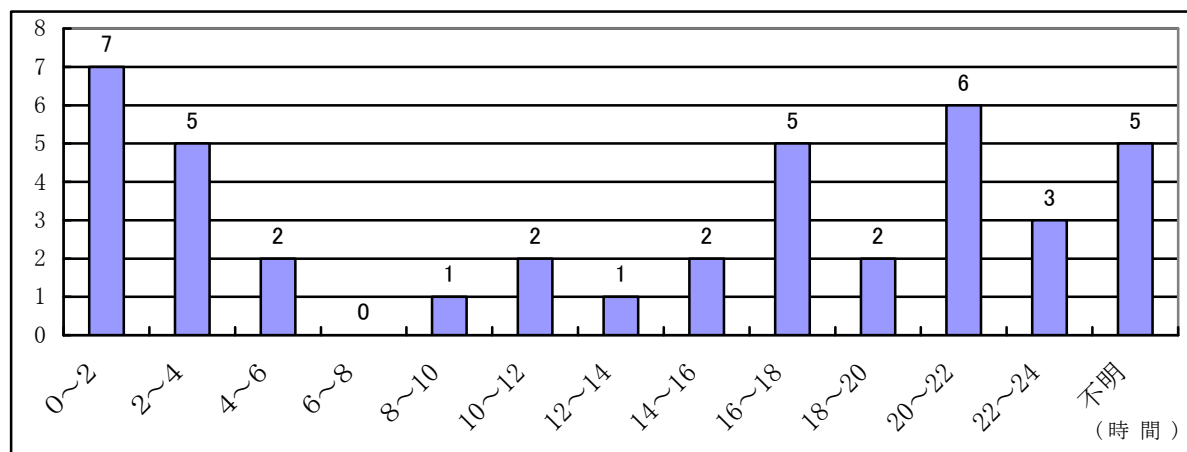
「放火」による火災の損害額は7,978千円で、火災による損害額全体(142,764千円)の5.6%となっている。

イ 時間帯別発生状況

「放火」による火災 41 件について、発生状況を時間帯にみると、周りが暗くなる 20 時から翌 6 時の時間帯に 23 件発生し、56.1%を占めている。

時間帯別発生状況は、図 4-1-1 に示すとおりである。

図 4-1-1 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「放火」による火災 41 件を、建物火災と建物火災以外の火災に大別してみると、建物火災は 16 件、建物火災以外の火災は 25 件発生している。

建物火災 16 件の出火箇所をみると、建物内部で 5 件、建物外部で 11 件発生し、建物外部 11 件のうち、雨樋や工作物の「外周部」が最も多く 7 件となっている。

建物火災以外の火災 25 件の内訳は、車両火災が 5 件、その他の火災が 20 件となっており、出火箇所をみると、「敷地内」が最も多く 10 件となっている。

着火物をみると、建物火災では「紙屑・わら屑」が最も多く 4 件で、建物火災以外の火災では「ごみ類」が最も多く 5 件となっている。

エ 用途別

「放火」による建物火災 16 件を火元建物用途別にみると、56.3%が居住系の建物で発生している。その他の内訳は、塾、集会場、公民館、病院・診療所、駅構内のトイレで、不特定多数の人が利用する施設が多い。

建物用途別発生状況は、表 4-1-2 に示すとおりである。

表 4-1-2 建物用途別発生状況（単位：件）

火 元 の 用 途												
合 計	居 住 系					事 業 系						
	小 計	一 般 住 宅	共 同 住 宅	併 用 住 宅	住 宅 付 属 建 物	小 計	複 合 用 途	物 品 販 売 店 舗	倉 庫	作 業 場	旅 館 ・ ホ テ ル	そ の 他
16	9	5	2	0	2	7	0	0	0	1	1	5

(2) こんろ～主に天ぷら油から出火～

ア 火災状況

平成 23 年中の「こんろ」による火災件数は 16 件であり、全火災（114 件）の 14.0%となっている。

「こんろ」による火災のうち、「天ぷら油」が起因する火災が最も多く 11 件で 68.8%を占めている。

こんろ火災の状況は図 4-2-1 に、天ぷら油による火災の状況は表 4-2-1 に示すとおりである。

図 4-2-1 こんろ火災の状況（最近 5 年、単位：件）

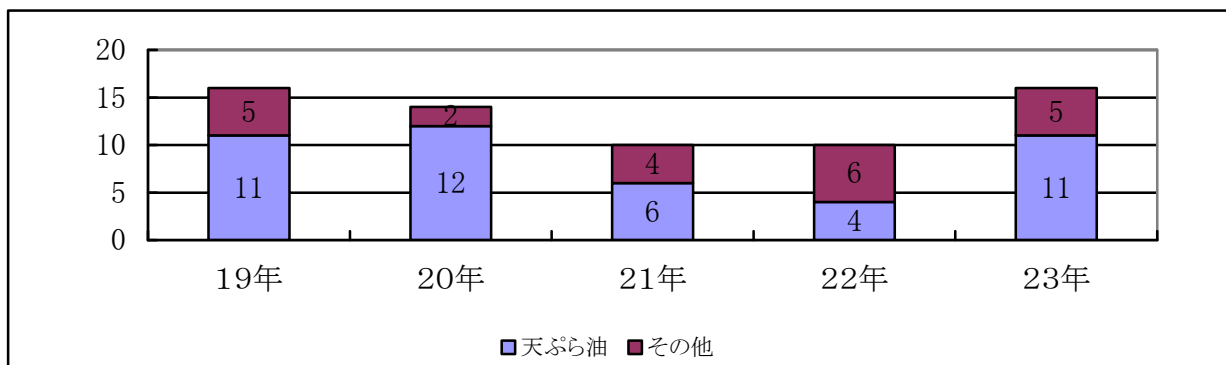


表 4-2-1 天ぷら油による火災の状況（最近 5 年）

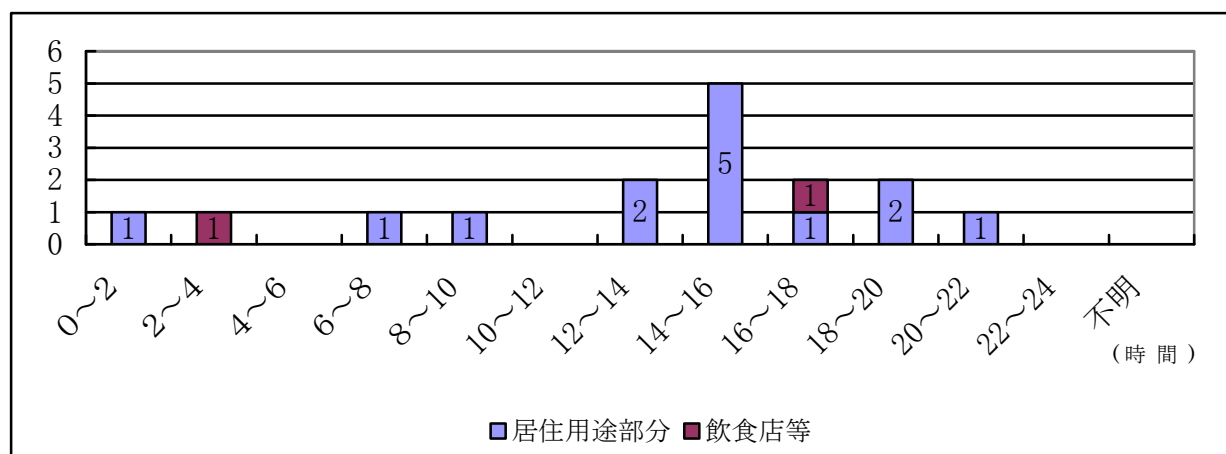
平成	建物火災（件）					焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	焼損棟数 (棟)	り災世帯 (世帯)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
19	11	2	0	5	4	220	3	39,098	13	9	0	6
20	12	0	0	7	5	52	130	23,681	12	10	0	0
21	6	0	0	3	3	11	34	1,265	6	6	0	1
22	4	0	0	3	1	8	2	186	4	4	0	1
23	11	0	0	5	6	3	7	397	11	10	0	1

天ぷら油による火災を含めた、「こんろ」による火災の損害額は 463 千円で、火災による損害額全体（142,764 千円）の 0.3% となっている。

イ 時間帯別発生状況

「こんろ」による火災 16 件について、発生状況を時間帯別にみると、食事の時間帯に限らず発生している。時間帯別発生状況は、図 4-2-2 に示すとおりである。

図 4-2-2 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「こんろ」による火災 16 件を出火箇所で見ると、居住用途部分は 14 件（87.5%）、飲食店等の居住用途部分以外は 2 件（12.5%）である。

着火物は、「天ぷら油（動植物油）」が 11 件で 68.8% を占め、次いで「ぼろ・油ぼろ」、「衣類」、「都市ガス」が各 1 件（各 6.3%）、「その他」が 2 件（12.5%）となっている。

原因別で見ると、「放置・忘れる」が 10 件で最も多く 62.5% を占めている。次いで「過熱」が 3 件（18.8%）、「可燃物が接触」が 2 件（12.5%）、「使用の誤り」が 1 件（6.3%）となっている。

(3) たばこ～発生件数は減少したものの死者 2 人～

ア 火災状況

平成 23 年中の「たばこ」による火災件数は 7 件であり、全火災（114 件）の 6.1% となっている。

「たばこ」による火災は前年の 16 件より 9 件減少しているが、死者は 2 人発生している。

たばこによる火災の状況は、表 4-3-1 に示すとおりである。

表 4-3-1 たばこによる火災一覧（最近 5 年）

平成	出火件数（件）							林野	車両	その他	焼損床面積 (㎡)	林野焼損面積 (a)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
	合計	建物	焼損棟数（棟）												
			全焼	半焼	部分焼	ぼろや	合計								
19	18	8	1	1	4	2	8	0	1	9	257	0	13,851	1	1
20	12	6	1	0	3	2	6	0	3	3	143	0	23,802	1	1
21	13	6	0	1	3	2	6	0	1	6	63	0	11,274	0	8
22	16	7	0	0	4	3	7	0	1	8	74	0	27,772	0	0
23	7	6	1	1	6	2	10	0	0	1	256	0	15,914	2	0

（備考）焼損棟数に類焼棟も含む。

「たばこ」による火災の種別は、建物火災が6件で85.7%を占め、次いでその他の火災が1件（14.3%）となっている。

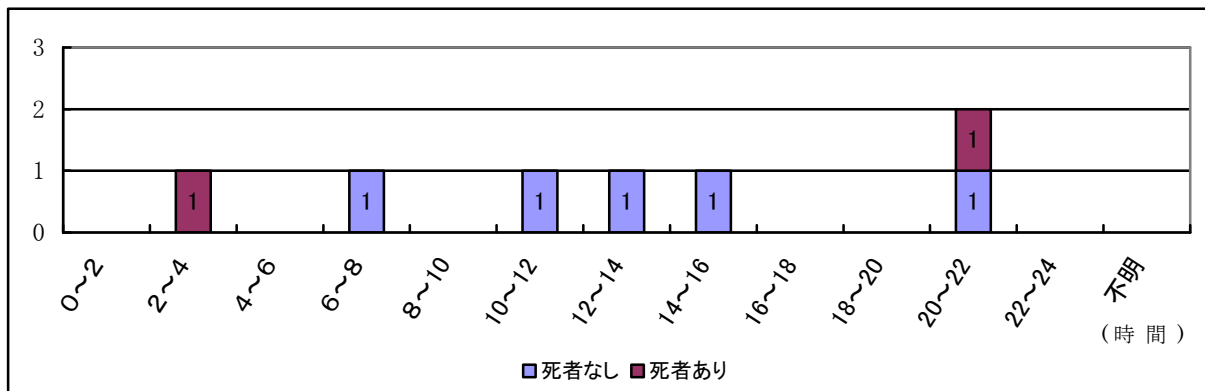
「たばこ」による火災の損害額は15,914千円で、火災による損害額全体（142,764千円）の11.1%となっている。

イ 時間帯別発生状況

たばこによる火災7件について、発生状況を時間帯別にみると、顕著な差はなく昼夜問わず発生しているが、死者が発生した2件についてみると、20時から22時の間に1件、2時から4時の間に1件発生している。

時間帯別発生状況は、図4-3-1に示すとおりである。

図 4-3-1 時間帯別発生状況（単位：件）



ウ 出火箇所と着火物

「たばこ」による火災7件を出火箇所で見ると、主に建物の部分は6件、建物以外では1件発生している。

主に建物の部分で発生した6件をみると、「居室」が最も多く4件で66.7%を占めている。

また、着火物で見ると、「ごみ屑」が3件、「繊維類（布団・寝具）」、「合成樹脂と形成品」、「その他」が各1件であり、吸殻の不始末や、寝たばこが原因とみられる。

建物以外の場所で発生した1件では、田畑内で枯草に着火したもので、投げ捨てられたことが原因とみられる。